

小 学 校

平成 30 年度

# 教育研究員研究報告書

外国語活動・外国語

東京都教育委員会

## 目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究仮説	4
IV	研究方法	5
V	研究構想図	6
VI	研究内容	7
VII	成果検証	19
VIII	研究の成果と課題	22

## 相手や他者に配慮しながら 主体的にコミュニケーションを図る児童の育成

### I 研究主題設定の理由

社会の急速な情報化、グローバル化の進展の中で、変化の激しい予測困難な時代を生きていく子供たちは、現在以上に多様な人々との関わりが求められるようになる。さらに、英語力の育成と異文化理解や異文化間コミュニケーションの充実は、ますます重要になっていくと考えられ、このような社会においては、他者とコミュニケーションを図りながら、自らの可能性を発揮し、社会や人生を豊かなものにすることが大切である。

本年度の教育研究員の共通テーマは「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」である。本研究では、児童が目的意識や相手意識をもち、英語を使ったコミュニケーションを通して、互いに気持ちや考えを伝え合ったり、友達の考えを理解し、自分の考えを広げたりすることができれば、共通テーマに迫ることができると考えた。そのために、児童が興味・関心をもって伝えたいと思う内容をやり取りする活動や、伝える相手のことを考え、伝え方を工夫する活動を設定することを重視した。また、コミュニケーションをする相手が、自分とは違う気持ちや考えをもっているということに児童が気づき、多様性を感じたり、相手への思いやりをもって接したりするよう指導することが重要である。

文部科学省の調査<sup>1</sup>では、英語を使えるようになりたい児童は9割を超えるが、友達に自分からすすんで話しかけることができる児童は半数程度という実態が明らかになっている。話したい気持ちはあるが、恥ずかしさや自信のなさから、英語ですすんで話しかけることができない児童が多く、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度が十分に養われていないと考えられる。

昨年度の教育研究員小学校外国語活動部会では、「自分の考えや気持ちを伝え合うことのできる児童の育成～対話を続けるための工夫を通して～」という研究主題を設定し、既習事項を繰り返し活用する場面を設け、対話を続けるための表現・手だてを指導することにより、既習表現の定着が図られ、自然な会話につながるという成果を得ることができた。しかし、相手のことを意識しながらコミュニケーションを取ることについては課題が残ったと指摘している。以上のことから、今年度は研究の主題を「相手や他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図る児童の育成」とした。

<sup>1</sup> 文部科学省（平成27年2月）「小学校外国語活動実施状況調査」による。

## Ⅱ 研究の視点

### 1 児童の主体性を引き出す指導の工夫

#### (1) 必然性のある場面設定

小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語科編<sup>2</sup>に「主体的にコミュニケーションを図る」には、「伝えたい相手や内容」「伝え合う必然性のある場面」が必要であると示されている。

主体的にコミュニケーションを図る態度を育成する上で、必然性のある場面を設定することは必要不可欠である。必然性のない活動を行うと、児童が活動の目的を見いだせず、外国語を学ぶ意欲を減退させるおそれがある。そこで、本研究では言語によるコミュニケーション活動の場面だけでなく、外国語の表現に出合い慣れ親しむ過程においても、伝え合う目的を意識させたり、必然性のある場面を工夫したりして、活動に取り組むことが重要であると捉え、その具体的な手だてを考えた。

#### (2) 目的意識をもたせるゴールの明確化と意欲を高める工夫

文部科学省の小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック<sup>3</sup>では、単元構成を「出会い」、「慣れ親しみ（習得）」「活用」の三段階で示し、導入時には「単元終末に設定されたゴールを知り、そのために必要な新しい表現に出合う活動」を行うこととしている。

そこで、児童の知的好奇心を刺激するために他教科の体験や知識を活用したり、単元のゴールを明確に示したりすることで、児童が目的意識をもって活動に取り組めるよう工夫した。例えば、単元前半で児童に「道案内を聞いて宝物を探す」という単元のゴールを示すことで、「道案内ができるようになる」「道案内が分かるようになる」といった目標を児童がもつようになると考えた。目的意識をもつことで、児童は表現の慣れ親しみや習得の活動に意欲的になり、使いたい表現を増やしたり、伝え方の工夫を考えたりする等、自ら学ぼうという主体性が表れると考えた。

さらに、「慣れ親しみや習得」の段階では、インフォメーション・ギャップを利用した「聞く」必然性のある活動などを通して児童が語句や表現に慣れ親しめるようにした。活動を意味のあるやり取りにすることで、児童の意欲を高めることを目指した。

#### (3) 児童が自信をもってコミュニケーションをするための段階的指導

小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月）で示されている「学びに向かう力、人間性等」は、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」と一体的に育成するものである。それらの力を育成するためには、段階的指導を通して、十分に表現に慣れ親しんだり、習得したりすることで、児童が自信をもち、主体的にコミュニケーションを行うとともに、このような体験を通して、児童が自らの力を伸ばすことが重要である。

平成 27 年度教育研究員の研究では、「外国語活動における学びの段階」に研究の視点を置き、「積極的にコミュニケーションを図る児童の育成」を目指している。その手

<sup>2</sup> 文部科学省（平成 29 年 7 月）「小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語科編」による。

<sup>3</sup> 文部科学省（平成 29 年 6 月）「小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック」による。

だてとして、「触れる→知る→使う」という三つの段階的指導を、単元構成に組み込んだ結果、児童がコミュニケーションに必要な表現を自然に習得できたことを成果として挙げている。

そこで、本研究ではそれに加え、単元全体だけでなく、一単位時間の中でも段階的指導を行うようにした。より細かな段階的指導が児童の主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながると考えたからである。具体的には、①教師がモデルを児童に見せ理解させる段階“I do”②教師が児童と一緒に活動し、慣れ親しませる段階“We do”③児童同士で活動させる段階“You do”という三つの段階を一単位時間の中に取り入れるようにした。

## 2 相手や他者に配慮する表現指導の工夫

### (1) 表現選択の工夫

相手や他者のことを考え、主体的なコミュニケーションを図るためには、聞き手の理解の状況を確認しながら話そうとする態度、相手の発話に反応しながら聞き続けようとする態度等の相手への配慮が求められる。また、多様な考えを受け止める姿勢は、異文化理解やコミュニケーションを図る上でも大切である。児童が授業の中で定型的な表現を学んだ後で、相手の気持ちや考えを受け止めようとする姿勢を示す表現も身に付けさせたい。しかし、学習経験や使える表現が少ない児童にとっては、表現が増えることが負担につながってしまうことも懸念される。

そこで、相手の発話に反応する表現をいくつかの選択肢から児童自身が選ぶことで、少ない負担で表現を増やすことができると考えた。基本的なやり取りの流れを吹き出しや絵等を使って黒板に掲示した上で、いくつかの反応をまとめて視覚化したカードを活用する。好きなものや欲しいものを尋ねる際には、スポーツや料理、動物などカテゴリーでまとめた絵を返答の手掛かりとして与える。視覚的に示されたものの中から選んでも良いし、自分の言いたいことがなければそのことを伝えることも可能である。特に、選択肢以外のものを伝える際には、言葉以外の方法を工夫するなどして伝えたり理解したりする手だてを示すことも大切である。

初めは限られた表現を使ってのやり取りになるが、慣れ親しみが深まり、達成感を味わうことで、徐々に使える表現や工夫を増やしていくことが期待できる。

### (2) 非言語表現の工夫

また、非言語による伝え方の工夫も行う。ジェスチャーと関連付けて語句や表現を覚えさせたり、ソーシャルスキルトレーニングにおけるモデリングのように、見本を見せる際にあえて言いたいことがうまく言えない場面を見せ、聞き直したり繰り返し言ったりする等の対話を続ける手段を児童に考えさせる等、状況からの理解も図る。音声と共に、視覚的に補助したり動作を交えて指導したりすることで、児童がコミュニケーションにおいて多様な表現ができるようになると思った。

### (3) 学習経験や生活経験の活用

また、既習事項や児童の生活経験や学習経験を活用した活動の工夫も重要である。既習の言語材料は Small Talk 等で積極的に使用し、新しい語彙を導入する際には外

来語として慣れ親しんだものや他教科で学んだものを手掛かりとする。その際「○○と言え何？」など、児童から引き出した言葉を活用する等、柔軟に指導を行いたい。

### Ⅲ 研究仮説

#### 1 目指す児童像

研究主題を受け、本研究を通して育成を目指す児童像を次のように設定した。

自分の考えや気持ちを伝えたい、もっと相手のことを知りたいという思いをもって、相手や他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションをする児童

「自分の考えや気持ちを伝えたいという思いをもつ児童」とは、自身の知識・技能や経験等を総動員して、相手に外国語で自分の考えや気持ちを何とか伝えようとしている児童の姿を表している。その際に、自分の考えや気持ちをより分かりやすく伝えるために、自分の考えの大切なところを強くはっきり発音したり、気持ちを込めた言い方を工夫したりする等の聞き手に対する配慮をすることが大切である。例えば、好きなスポーツを伝える際に、ボールやユニフォーム等の実物を持ってきて見せたり、ジュスチャーを交えたりすることや、相手が理解できているかどうかを確認したり、伝わっていないればゆっくり話したり、もう一度話したりすることが挙げられる。

また、「もっと相手のことを知りたいという思いをもつ児童」とは、相手の発する外国語を注意深く聞き、何とか相手の思いや意図を理解しようとする児童の姿を表している。その際、相手の思いや意図をよりよく理解するためには、相手の話した言葉を繰り返し、「伝えたい内容」を確かめたり、相手の話したことに何らかの反応を示したりする等の「話し手に対する配慮」をすることが大切である。こうした体験をすることで、児童がコミュニケーションに対して満足感を感じたり、会話を続ける自信をもったりすることにつながると考えた。

相手が聞きたいことは何か、相手が理解しやすいように表現するにはどのようにすればよいか等を思考・判断し、聞き手に対する配慮をしながら表現しようとしている児童の姿や、相手の思いや意図をよりよく理解するために話し手に対する配慮をしながら聞き続けようとしている児童の姿を、「主体的にコミュニケーションをする児童」と捉え、目指す児童像として設定した。

#### 2 研究の仮説

児童の主体的なコミュニケーションを図るために、児童が相手とのやり取りを「面白そう」「やってみたい」と感じ、意欲的になるよう、教師が意図的に手だてを講じることが求められる。意欲付けのための手だての一つとして、児童が「聞いて知りたい」「話して教えてあげたい」と身を乗り出すような、必然性のある場面が大切であると考えた。必然性のある場面や目的意識のある活動は、児童の能動的な学びを促す。

また、既習の知識や表現、経験の中から、相手に分かりやすく伝えるために表現を選んで活用させることも、意欲付けのための手だての一つであると考えた。児童に定型の表現を使わせるとともに、自分自身で表現を工夫したり選択させたりすることで、活動に主体的に参加するようになる。音声による表現とともに、身振りや表情、写真・ポスターを使うなど非言語的な方法も工夫するよう助言することが考えられる。

前出の小学校外国語活動・外国語研修ガイドブックには、与えられた語句や表現を何度も単純に復唱したり、練習を言語活動と切り離して、単語をリスト化して覚え込ませたり、文の一部を言い返させたりする等、単調な繰り返しの練習ばかりで言語活動を行わずに授業が終わってしまえば、児童の意欲を減退させるおそれがあることが記されている。児童が自分自身に必要な言語材料や表現方法を選択して活用できるようにすることで、児童の意欲が高まり、慣れ親しんだ語句や表現を活用しようとする主体的な態度が育成されるのである。以上のことから、次の仮説を設定した。

伝え合う目的や必然性のある場面を設定し、表現する内容の自己選択や表現方法の工夫をさせることで、児童は相手や他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとするだろう。

#### IV 研究方法

##### 1 基礎研究

次の方法により外国語活動・外国語教育の現状・方向性の把握、児童の実態把握を行った。

###### (1) 文献及び各種答申等の分析

- ・小学校学習指導要領外国語活動・外国語（平成 29 年 3 月）
- ・小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編（平成 29 年 7 月）
- ・小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック（文部科学省 平成 29 年 6 月）
- ・幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（文部科学省 平成 28 年 12 月 21 日）
- ・東京都教育施策大綱（平成 29 年 1 月）

###### (2) 先行研究の分析

- ・過去の教育研究員小学校外国語活動部会による研究報告書

###### (3) 質問紙調査の実施と分析

- ・教育研究員が授業を行う学級児童を対象にした質問紙調査による課題分析

##### 2 実践研究

基礎研究を踏まえ、研究の視点をしぼり、それぞれについて具体的な手だてを構想した。また、その効果を検証するための授業を実施した。

##### 3 研究のまとめ

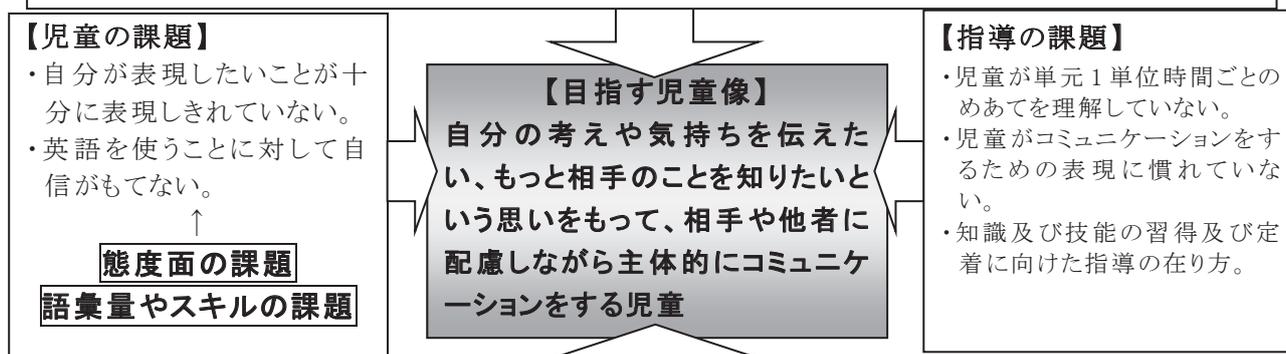
各 3 回の検証授業の実施後に児童のアンケート結果や振り返りカード、児童の活動等から授業の分析を行い、研究の仮説及び手だての有効性について考察した。また、検証授業における成果と課題を踏まえ、「自分の考えや思いを伝えたい、もっと相手のことを知りたいという思いをもって、主体的にコミュニケーションをする児童」の育成に向けた具体的な手だてをまとめた。

## V 研究構想図

<p><b>【研究の背景】</b> 平成 30 年度から、新学習指導要領の移行措置期間が始まり、平成 32 年度から、中学年は外国語活動、高学年は外国語科の授業が行われる。高学年では「読むこと」「書くこと」が導入される。児童が言語活動を通してコミュニケーション能力の素地や基礎となる資質・能力を身に付けることができるよう、授業の改善を行うことが急務である。</p>	<p><b>【東京都教育委員会の教育目標】</b> 自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間 <b>【東京都教育施策大綱】</b> 重要事項Ⅲ 世界で活躍できる人材の育成 方針 1 小・中・高校を通じ、4 技能を身に付ける英語教育の推進 <b>【東京都教育ビジョン（第 3 次・一部改定）】</b> 取組の方向 2 世界で活躍できる人材の育成 主要施策 3 「使える英語」を習得させる実践的教育の推進</p>
<p>外国語活動の目標(中学年) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、話すことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を育成することを目指す。</p>	<p>外国語の目標(高学年) 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目指す。</p>

共通研究テーマ 「『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けた授業改善」

研究主題 相手や他者に配慮しながら主体的にコミュニケーションを図る児童の育成



### 研究仮説

伝え合う目的や必然性のある場面を設定し、表現する内容の自己選択や表現方法の工夫をさせることで、児童は相手や他者に配慮しながら、主体的にコミュニケーションを図ろうとするだろう。

### 研究の内容と方法

○基礎研究…文献及び各種答申等の分析、先行研究の分析、質問紙調査の実施と分析

#### ○研究の視点

##### ①児童の主体性を引き出す指導の工夫

- ・必然性のある場面設定
- ・目的意識をもたせるゴールの明確化と意欲を高める工夫
- ・児童が自信をもってコミュニケーションするための段階的指導

##### ②相手や他者に配慮する表現指導の工夫

- ・既習事項や児童の生活経験・学習経験を活用した活動の工夫
- ・既習事項や相づち、カテゴリー分けされた語彙など、活用できる表現を可視化し、活用する。

○検証…児童の事前・事後アンケートによる児童の変容を、授業を通して検証

○成果と課題の整理

## VI 研究内容

### 【検証授業1】(第3学年)

#### 1 単元名

I like blue. 「好きなものをつたえよう」

文部科学省 小学校外国語活動教材 “Let’s Try! 1” Unit 4

#### 2 単元の目標

- ・相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・色の言い方や、好みを表したり好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。  
(外国語への慣れ親しみ)
- ・外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付く。  
(言語や文化に関する気付き)

#### 3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①相手に伝わるように工夫しながら、すすんで好みを尋ねたり答えたりしようとしている。	①相手に配慮しながら自分の好みを伝え合っている。 ②色の言い方や、好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しんでいる。	①多様な考え方があることや、外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付いている。

#### 4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、“Do you like (blue)?” “I like (blue).”などの表現に慣れ親しみ、積極的に好きなものについて尋ねたり答えたりしながら、相手を意識してコミュニケーションを図ることをねらいとし、研究主題に迫るために、以下の手だてについて検証した。

##### (1) 他教科との関連付け(学習経験や生活経験の活用)

本単元では、国語科の「サラダでげんき」や、総合的な学習の時間の「野菜はかせになろう」での学習成果を生かせるような場面設定として、暑さで疲れ気味の先生や友達が元気になるようなサラダを作る活動を取り入れた。他教科等で得た知識や体験などを生かした活動を展開することで、児童が安心して取り組めたり、児童の知的好奇心を更に刺激したりすることにつながり、さらに主体的に学ぼうとする意欲が高まるのではないかと考えた。

##### (2) 単元のゴールの明確化(目的意識をもたせるゴールの明確化)

単元の初めに「英語で自分や友達の好きなものを言ってみよう」というゴールを提示した。ゴールを毎単位時間の初めに確かめることで、実現するために必要な語句や表現を練習する必然性が生じ、目的意識をもって活動に取り組むことができるのではないかと考えた。

(3) 言語材料の工夫（表現選択の工夫）

事前に、サラダを作る活動で使用したい言語材料（好きなサラダの具）を児童からアンケートを取り、語彙を増やしたり、全体で共有したりして、児童自身が伝えたいことを活動の中で伝え合えるようにした。

(4) 言葉ややり取りの可視化（相づちを打つ・うなずく）（非言語表現の工夫）

本単元では、児童の発達段階や授業展開に沿う“Me, too.” “Wow!” “Really?”という3つの相づちに絞り、相手の反応を見ながら、自分で表現を選んで伝える活動を設定した。相手に合わせて自己選択する活動を積み重ねることで、児童は目の前の相手のことを考えながら、積極的にコミュニケーションが図れるようになるのではないかと考えた。また、3つの相づちを絵カードにして可視化し、掲示することで、慣れ親しみの段階において児童の助けになるようにした。

(5) 慣れ親しみの場面における段階的指導（児童が自信をもってコミュニケーションをするための段階的指導）

児童が相手とのコミュニケーションをするために表現に慣れ親しむことが不可欠である。そのために“I do-We do-You do”の3段階を取り入れ、自然な流れで言語の慣れ親しみを図り、児童が安心して活動に取り組めるようにした。児童が自信をもつことが、主体的なコミュニケーションにつながると考えた。

5 単元の指導計画と評価計画（4時間）

時	目標	学習活動	評価規準
1	・色の言い方に慣れ親しみ、好きなものを表す表現を知る。	<b>【Greeting】</b> 挨拶をする。 <b>【Warming up】</b> 教室にある色をさがす。 <b>【Today's Goal】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">英語で色を言ってみよう。</span> <b>【Activity】</b> 好きな色で自分の虹をかく。 色 の 言 い 方 を 知 る 。 <b>【Let's Watch and Think】</b> 世界の子供たちの描く虹を見る。 キ ー ワ ー ド ・ ゲ ー ム を す る 。 <b>【Let's Listen】</b> 何色が好きか聞いて線で結ぶ。 <b>【Let's Chant】</b> I like blue(色編)を聞いて言う。 <b>【Looking back】</b> 振り返りカードを書く。 <b>【Closing】</b> 挨拶をする。	ウ①
2	・外来語を通して英語の音声やリズムなど日本語との違いに気付くとともに、好みを表す表現に慣れ親しむ。	<b>【Greeting】</b> 挨拶をする。 <b>【Warming up】</b> The Rainbow Song を歌う。 カ ラ ー タ ッ チ ・ ゲ ー ム を す る 。 <b>【Today's Goal】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">好き(嫌い)なものを伝えよう。</span> <b>【Activity】</b> I like/I don't like の表現を知る。 ス ポ ー ツ の 言 い 方 を 知 る 。 <b>【Let's Chant】</b> スポーツ編を聞いて言う。 <b>【Let's Listen】</b> 好き(嫌い)なスポーツを聞く。 ア リ ゲ ー タ ー ・ ゲ ー ム を す る 。 <b>【Looking back】</b> 振り返りカードを書く。 <b>【Closing】</b> 挨拶をする。	イ② ウ①

3 本時	・好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、相手に配慮しながら自分の好みを伝え合う。	<b>【Greeting】</b> 挨拶をする。 <b>【Warming up】</b> The Color Song を歌う。 <b>【Let's Chant】</b> 色・食べ物編を言う。 <b>【Today's Goal】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">好きかどうか聞いてみよう。</span> <b>【Activity】</b> 好みを尋ねる表現を知る。 <b>【Let's Watch and Think】</b> 登場人物が好きかどうか予想して○や△を書いて尋ねる。 <b>【Let's Play】</b> 友達にインタビューする。 <b>【Looking back】</b> 振り返りカードを書く。 <b>【Closing】</b> 挨拶をする。	イ①
4	・相手に伝わるように工夫しながら自分の好みを紹介しようとする。	<b>【Greeting】</b> 挨拶をする。 <b>【Warming up】</b> The Color Song を歌う。 <b>【Let's Chant】</b> 色・スポーツ・食べ物編を言う。 <b>【Today's Goal】</b> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の好みについて紹介しよう。</span> <b>【Activity】</b> 自己紹介シートを作成する。 相手に伝わるような工夫について話し合う。 自分の好みについて発表する。 <b>【Looking back】</b> 振り返りカードを書く。 <b>【Closing】</b> 挨拶をする。	ア①

## 6 本時（第3時／4時間）

本時の目標

好きかどうかを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむとともに、相手に配慮しながら自分の好みを伝え合う。

	学習活動	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (5分)	<b>【Greeting】</b> ・挨拶をする。 ・Hello song /The Color Song	・全体で挨拶を交わした後、How are you? リレーで1人ずつ自分の状態を伝える機会を作る。 ・歌を歌うことで楽しく英語の授業が始まる雰囲気を作り出す。
	<b>【Warming up】</b> ・既習表現を確認する。 ・Let's Chant (色・食べ物)	・既習表現を確認し、本時の内容に円滑に入れるようにする。
展開 (35分)	<b>【Today's Goal】</b> ・本時のめあてを知る。	<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ゴール：英語で自分や友達の好きなものを言ってみよう。</span> <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">友達のためにスペシャルサラダをつくろう。</span>
	<b>【Activity】</b> ・好みを尋ねる表現を知る。 Do you like blue? Yes, I do. I like blue. ・友達に好きな色を聞き、自分と同じ色が好きな友達を見つける。 A: Do you like blue? B: Yes, I do. / No, I don't. A: Really? / Wow! / Me, too.	・黒板に「好き」「好きではない」マークを書き、答えに応じてカードを貼っていくことで、表現の意味を理解させる。 ・指導者がジェスチャーや表情、相づちなど、対話を続けるための工夫を見せる。 ・十分に慣れ親しんだ語句(色)で、新しい表現に出会わせる。 ◎好きかどうかを尋ねたり答えたりしている。 (行動観察・振り返りカード)

I do

We do	<p>【Let's Watch and Think】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先生が好きな野菜を予想して、その予想が合っているか確かめる。</li> </ul> <p>A: How are you? B: I'm tired. A: Do you like carrots? B: Yes, I do. / No, I don't. A: Really? / Wow! / Me, too.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内の先生の好みを予想させることで、「聞く必然性」と「聞きたいという目的意識」をもたせる。</li> <li>他教科等との関連（国語科「サラダでげんき」総合的な学習の時間「野菜はかせになろう」）を想起させることによって、活動への意欲を更に高められるようにする。</li> </ul>
You do	<p>【Let's Play】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友達にインタビューしてスペシャルサラダを作る。</li> </ul> <p>A: Hello. B: Hi. A: How are you? B: I'm tired. A: Really? Do you like carrots? B: No, I don't. A: Really? Do you like onions? B: Yes, I do. A: Me, too. Do you like corn? B: Yes, I do. A: Wow! Me, too. Here you are. B: Thank you. A: Bye. B: Bye.</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の好きなサラダの具を事前に調査し、語彙を学級全体で十分に共有しておく。</li> <li>ペア活動で活動に時間がかかることが予想されるため、サラダの具は三つとする。三つ選ぶまで何回でも質問してよい。そのため、好きなものをたくさん考えておくことよいことを伝える。</li> <li>初めに隣の友達のサラダを作ることで、表現に慣れ親しんでから、新しいペアを探して交流する。</li> </ul> <p>◎相手に配慮しながら、自分の好みを伝え合っている。（行動観察・振り返りカード）</p>
まとめ (5分)	<p>【Looking back】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>振り返りカードを書く。</li> </ul> <p>【Closing】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>インタビューをして新たに発見した友達の一面を書かせることで相互理解を更に深める。</li> </ul>

## 【検証授業2】（第5学年）

### 1 単元名 What do you have on Monday?（学校生活・教科・職業）

文部科学省 小学校外国語教材 “We Can!1” Unit 5

### 2 単元の目標

- 教科について聞いたり言ったりすることができる。また、活字体の小文字を識別し読むことができる。（知識及び技能）
- 学校生活に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉えたり、時間割について伝え合ったりする。（思考力・判断力・表現力）
- 他者に配慮しながら、時間割やそれについての自分の考えなどを伝え合おうとする。（学びに向かう力、人間性等）

### 3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①時間割について積極的に尋ねたり答えたりしようとしている。 ②アイコンタクトをしたり相づちを打ったりしながら友達と楽しく交流している。	①教科についての表現や尋ね方に慣れ親しみ、それらを用いながら活動している。	①世界の小学校の学校生活を知り、日本との違いや共通点に気付き、考えを友達と伝え合っている。

### 4 研究主題に迫るための手だて

本単元では、既習である“Do you have～?”の表現を用いて、時間割の内容を尋ねたり答えたりしながら、他者に配慮しつつコミュニケーションを図ることをねらいにした。研究主題に迫るため、以下の手だてについて検証した。

#### (1) 伝え合う目的の明確化や必然性のある場面設定（必然性のある場面設定）

児童にとって身近な生活やコミュニケーション場面と関連のある「理想の時間割を作る」という活動を設定した。相手に伝えたい内容や、知りたい内容があることで児童の意欲を喚起し、主体性をもたせようとした。

#### (2) 単元のゴールの明確化（目的意識をもたせるゴールの明確化）

単元の導入時に「職業と関連付けた時間割のクイズ大会をする」という単元のゴールを児童に提示することで、職業や教科名を覚える必然性を児童に感じさせ、学習に対する主体性をもたせようとした。

#### (3) 表現する内容の自己選択や表現方法の工夫（表現選択の工夫）

自分の意見を伝える表現に加え、友達が話した内容に反応する“Good.” “Great.” “Wonderful.”等の表現から、児童一人一人に表現を選ばせることで、児童に主体性をもたせ、友達への伝え方を意識させようとした。

#### (4) 非言語表現の工夫（非言語表現の工夫）

コミュニケーションを円滑に行うために「挨拶、相づち、身振り、表情」等の手だての活用を積極的に行わせ、他者への配慮を児童に意識させた。その際、手だてを絵カードにして可視化し、児童がコミュニケーションに手だてを取り入れやすくなるようにした。

#### (5) 慣れ親しみの場面における段階的指導（児童が自信をもってコミュニケーションをするための段階的指導）

児童が新出語句や表現に慣れ親しみ自信をもつことが、「主体的な学び」や「他者への配慮」につながると考えた。そのため、“I do-We do-You do”の3段階を取り入れ、教師の提示から児童相互の学び合いまでを意図的に構成することで、児童があまり負担を感じずに、段階的に表現に慣れ親しむことができるようにした。

## 5 単元の指導計画と評価計画

時	目標	学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の小学校の学校生活に興味をもつ。</li> <li>時間割についての表現や尋ね方を知る。</li> </ul>	<p>【Greeting】挨拶をする。【Warming up】 Small Talk</p> <p>【Today's Goal】<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教科などの言い方を知ろう。</span></p> <p>【Practice】 ヒントクイズ 聞き取りクイズ</p> <p>【Activity】 ポインティングゲーム キーワードゲーム</p> <p>【Reading】 曜日カードを読む。</p> <p>【Looking back】 振り返りカードを書く。【Closing】 挨拶をする。</p>	ウ①
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間割についての表現や尋ね方に慣れ親しむ。</li> </ul>	<p>【Greeting】挨拶をする。【Warming up】 “Sunday, Monday, Tuesday”</p> <p>【Today's Goal】<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">教科名を英語で言ってみよう。</span></p> <p>【Practice】 ミッシングゲーム</p> <p>【Activity】 ビンゴゲーム 聞き取りクイズ</p> <p>【Reading】 教科カードを読む。</p> <p>【Looking back】 振り返りカードを書く。【Closing】 挨拶をする。</p>	イ①
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>学ぶ教科を尋ねたり答えたりして、積極的に友達とコミュニケーションを図ろうとする。</li> </ul>	<p>【Greeting】挨拶をする。【Warming up】 “Sunday, Monday, Tuesday”</p> <p>【Today's Goal】<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">時間割を尋ねたり答えたりしよう。</span></p> <p>【Practice】 ドンじゃんけん</p> <p>【Activity】 インタビューゲーム 聞き取りクイズ</p> <p>【Writing】 選んだ曜日を英語で書く。</p> <p>【Looking back】 振り返りカードを書く。【Closing】 挨拶をする。</p>	ア①
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の「夢の時間割」を考え、一日の時間割を作成する。</li> </ul>	<p>【Greeting】挨拶をする。【Warming up】 アルファベットジングル</p> <p>【Today's Goal】<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の夢の時間割を作ろう。</span></p> <p>【Practice】 カルタゲーム チャンツ</p> <p>【Activity】 夢の時間割作り</p> <p>【Writing】 選んだ教科を英語で書く。</p> <p>【Looking back】 振り返りカードを書く。【Closing】 挨拶をする。</p>	イ①
5 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>HRT や ALT や友達と夢の時間割について尋ねたり答えたりする。</li> </ul>	<p>【Greeting】挨拶をする。【Warming up】 アルファベットジングル</p> <p>【Today's Goal】<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">夢の時間割を伝えたり尋ねたりしよう。</span></p> <p>【Practice】 チャンツ 聞き取りクイズ</p> <p>【Activity】 インタビューゲーム</p> <p>【Reading】 夢の時間割を読む。</p> <p>【Looking back】 振り返りカードを書く。【Closing】 挨拶をする。</p>	ア②
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>職業を選び、その職業に就くためのオリジナル時間割を作成し、伝え合う。</li> </ul>	<p>【Greeting】挨拶をする。【Warming up】 アルファベットカードゲーム</p> <p>【Today's Goal】<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オリジナルの時間割を作ろう。</span></p> <p>【Practice】 チャンツ 聞き取りクイズ</p> <p>【Activity】 オリジナル時間割作り</p> <p>【Writing】 選んだ教科を英語で書く。</p> <p>【Looking back】 振り返りカードを書く。【Closing】 挨拶をする。</p>	ア①
7	<ul style="list-style-type: none"> <li>オリジナル時間割を班対抗クイズ形式で発表する。</li> </ul>	<p>【Greeting】挨拶をする。</p> <p>【Warming up】 アルファベットカードゲーム</p> <p>【Today's Goal】<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">オリジナルの時間割を発表しよう。</span></p> <p>【Activity】 オリジナル時間割の発表</p> <p>【Reading】 オリジナル時間割を読む。</p> <p>【Looking back】 振り返りカードを書く。</p> <p>【Closing】 挨拶をする。</p>	イ①

6 本時 (第5時/7時間)

本時の目標 夢の時間割作りを通して、友達と積極的にコミュニケーションを図ろうとする。

	活動内容	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (5分)	<b>【Greeting】</b> ・挨拶をする。 ・Small Talk <b>【Warming up】</b> ・アルファベットジングル <b>【Today's Goal】</b> ・今日のめあてを知る	・笑顔で明るい雰囲気を作り、挨拶をする。 ・リズムにのってアルファベットジングルを言うようにさせる。 ・めあてを確認させ、夢の時間割を伝えたり、尋ねたりしようとする意欲を高めさせる。
	夢の時間割を伝えたりたずねたりしよう。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         表現する内容の自己選択や表現方法の工夫                     </div>	・相づちやジェスチャー、アイコンタクトを取ることも自分のめあてにできるよう、声を掛けておく。
展開 (35分)	<b>【Activity】</b> チャンツ、聞き取りクイズ、インタビューゲームをする。 ① チャンツ “What do you have on Monday? ♪” ・音声を聞き、リズムに合わせてチャンツをする。 ・教科や曜日を変えて、チャンツをする。 ② 聞き取りクイズ ・担任の夢の時間割を聞き、表に書く。 ・聞き取った内容を発表する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         伝え合う目的や必然性のある場面設定                          ゲームにすることで活動に必然性をもたせる。                     </div> ③ インタビューゲーム ・グループごとに夢の時間割表を作成する。 ・夢の時間割について。ペアでインタビューをする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         慣れ親しみの場面における段階的指導                          “I do-We do-You do”の3段階の指導をする。                     </div>	・Main Activityの活動を知らせ、活動の見通しをもたせる。 ・教科や曜日の絵カードを黒板に貼り、出てくる絵カードを指しながらチャンツをさせる。 ・担任の夢の時間割と理由を聞かせ、表に書かせる。 ・子どもに発表させながら、担任の夢の時間割を確認する。 ・友達と夢の時間割がグループの表のうちのどれなのかを当てるためにインタビューをする必然性をもたせる。 ・既習以外の児童が表現したい教科も使用してよいことを伝える。 ・ゲームの前に①担任②担任と代表の児童③代表児童同士、と段

	<p>A: Hello. B: Hello. A: What do you have on Monday? B: I have Japanese, P.E., home economics and music. A: Great! You like P.E. Me too! A: Thank you. Good-bye. B: Thank you. Good-bye.</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの時間割が誰の夢の時間割か、グループで答え合わせをする。</li> <li>・インタビューで気付いた友達のことを発表する。</li> </ul>	<p>階を追ってデモを示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相づちやジェスチャーを使ってコミュニケーション自体を楽しんでいる児童を称揚し、児童に活動の目的を再認識させる。</li> <li>・友達の夢の時間割について気付いたことを発表させる。</li> </ul> <p>◎すすんで夢の時間割について聞いたり答えたりしている。 ＜行動観察＞</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p><b>【Looking back】</b> 振り返りカードを書く。</p> <p><b>【Closing】</b> 挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会話の楽しさや新しい気付き等を発表させ、互いの良かったところを伝え合う。</li> <li>・終わりの挨拶をする。</li> </ul>

【ワークシート】

Let me try! 外国語科ふり取りカード

5年 組 名前( )

月 日 ( )

☆あてはまるところに○をつけよう。

コミュニケーションポイント	1 できた	2 まあまあ できた	3 よく できた	4 完璧だった
話したり聞いたりしている時に、アイコンタクトできた。				
話したり聞いたりしている時に、ジェスチャーできた。				
相づちをうちながら話したり、聞いたりできた。				
話をするときに、はっきり話すことができた。				
分かったこと・感想				
-----				
-----				
-----				
-----				

表現する内容の自己選択や表現方法の工夫  
他者への配慮をめあてとして意識させる。

### 【検証授業3】(第3学年)

#### 1 単元名 ALPHABET「アルファベットとなかよし」

文部科学省 小学校外国語活動教材 “Let’s Try! 1” Unit 6

#### 2 単元の目標

- ・相手に伝わるように工夫しながら、自分の姓名のアルファベットなどを伝えようとする。  
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- ・活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむ。  
(外国語への慣れ親しみ)
- ・身の回りには活字体の文字で表されているものがあることに気付く。  
(言語や文化に関する気付き)

#### 3 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	イ 外国語への慣れ親しみ	ウ 言語や文化に関する気付き
①相手に伝わるように工夫しながら、自分の名前を友達に伝えようとしている。	①アルファベットの大文字の音声や形、順番に慣れ親しんでいる。 ②アルファベットを用いて、自分の名前を友達に伝えたり、尋ねたりしている。	①自分たちの身近な場所にもアルファベットが用いられていることに気付いている。

#### 4 研究主題に迫るための手だて

本単元は、アルファベットの文字を題材とする初めての単元となり、大文字とその読み方に慣れ親しむことが目標となる。これまでに学んだ表現を使って相手に自分のことを紹介することを楽しみ、相手を意識してコミュニケーションを図ることをねらう。研究主題に迫るために、以下の手だてについて検証した。

##### (1) アルファベットを使った名刺を交換する場面の設定(必然性のある場面設定)

英語圏の本物の名刺を印刷したものを提示し、アルファベットを学ぶ意味と使用する場面を明確にする。「自分も書いてみたい」「作ってみたい」という気持ちを児童に喚起させて、「名刺を作り、友達と交換する」という学習のゴールを児童と共有した。

その際、使用する名刺は名前が大文字で記載されているものを選び、自分たちが行っている活動には意味があり、将来も使えるものだ、と思えるようにした。また、名前の順番は、名→姓で記入する。体験を通して、他国の文化を知ることによって視野を広げ、名前の順番にもそれぞれの国のアイデンティティがあることを感覚として理解できるようにした。

##### (2) これまでに学んだ表現を使用した名刺作りの活動(学習経験や生活経験の活用)

児童が単元の最後に取り組む名刺交換の活動では、名刺に「好きな物」を書いた。これま

でに学んだ表現“I like ～.”を言いながら名刺交換をするようにし、「自分のことを伝え、相手のことを知る」という名刺交換への意欲付けを更に高めた。既習表現を繰り返し使うことや、児童が自信をもって自分の気持ちや考えを表現することにつながった。また、自分の名前を紹介する時には使用しているアルファベットを読み上げるようにし、本単元で学ぶ内容の定着を図れるようにした。さらに、児童が名刺交換の活動に入る際に、「好きなものが同じ人を探そう」「これまでに学んだ表現を全部集めよう」など、名刺交換の活動に目的をもたせる発問を取り入れた。相手の言っている内容や書いてある内容に興味をもち、そこから知らなかった情報に気付いたり、友達の新たな一面に気付いたりした児童を褒め、さらに意欲の喚起を図った。

(3) 表現する内容の自己選択や表現方法の工夫（表現選択の工夫、非言語表現の工夫）

本校3学年でアンケート調査を実施した結果から、「外国語活動の時間、相手に伝える工夫をして話すことができますか」「外国語活動の時間、うなずく、あいづちをうつ、ほめるなどのリアクションをしていますか。」という質問に8割以上の児童が「いつもできている」「時々できている」と回答していた。これらは、英語だけでなく、友達とコミュニケーションをする上でとても大切な行動である。何とか伝えようと努力したり、相手の話に楽しく反応しながらやり取りをしたりしている様子は見られるが、もう少し工夫や反応のバリエーションを知ることができると、より良いコミュニケーションになると考えた。そのため、コミュニケーション活動に入る前に“Wow.” “Really?” “Me too.” “Good.” “Nice.”などの反応の返し方や褒め方、「伝えたいところを大きく話す ゆっくり話す」などの相手に伝えるための工夫について確認をして、児童がやり取りをする際に自分で選択して取り組めるようにした。

(4) 伝えたいことを既習事項から選んで名刺を作る活動（学習経験や生活経験の活用）

名刺には、アルファベットで自分の名前を書くことに加え、既習事項を記入させた。ここで言う「既習事項」とは、自分の好きなものを伝える単元で行った「自分の好きな色・スポーツ・果物・食べ物」である。それらの中から選んで名刺にイラストを描いた。描いた内容を英語で発話しながら名刺を交換するようにするが、既習事項で慣れ親しんでいる内容であるため、無理なく発話することができると思った。上記の既習事項の内容以外でも、自分が友達に伝えたいものであれば選んでよいことにし、意欲の持続をねらった。また、自分で選んで作成することで伝え合う内容に価値をもたせ、更に意欲を高めようとした。

(5) 慣れ親しみの場面における段階的指導（児童が自信をもってコミュニケーションをするための段階的指導）

どの児童も安心して楽しく英語を使った活動を行えるよう、表現の慣れ親しみの場面において、“I do-We do-You do”の3段階を取り入れた段階的な指導を行った。名刺交換の場面で、教師が演示し、児童が真似して発話したり、代表児童が演示したりして活動に慣れさせるなど、児童が無理なく英語を発話することができるようにした。

5 単元の指導計画と評価計画（4時間）

時	目標	学習活動	評価規準
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットの大文字の形や音、順番に慣れ親しむ。</li> </ul>	<p>【Greeting】“Hello Song”</p> <p>【Let’s Sing】“Twinkle ABC”</p> <p>【Activity】カード並べを行い、アルファベットの順番に慣れ親しむ。ALTが言ったアルファベットを指し示したり、教師が指定したアルファベットが聞こえた時に友達とハイタッチをしたりする。</p> <p>【Communication】アルファベットの大文字をペアで仲間分けをする。お互いに紹介し合う。</p> <p>【Reflection】</p>	イ①
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アルファベットの大文字の形をよく見て慣れ親しむ。</li> </ul>	<p>【Greeting】“Hello Song”</p> <p>【Let’s Sing】“Twinkle ABC”</p> <p>【Activity】アルファベット伝言ゲームをして、アルファベットの形に慣れ親しむ。</p> <p>“Let’s Try! 1”の中にある図を使い、アルファベット探しをする。</p> <p>【Communication】自分の名前に入っているアルファベットを友達と尋ね合う。</p> <p>【Reflection】</p>	イ②
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・街中などの身近な場所にもたくさんのアルファベットが用いられていることに気付く。</li> <li>・アルファベットの大文字を使って自分の名前を表す。</li> </ul>	<p>【Greeting】“Hello Song”</p> <p>【Let’s Sing】“Twinkle ABC” “Beautiful Name”</p> <p>【Activity】街中の写真からアルファベットを探す。</p> <p>【Communication】見つけたアルファベットを紹介する。</p> <p>【Activity】名刺作りをする。</p> <p>【Reflection】</p>	ウ①
4 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手に伝わるように工夫しながら自分の姓名や好きなものを紹介したり、友達が話すのを聞いたりする。</li> </ul>	<p>【Greeting】“Hello Song”</p> <p>【Let’s Sing】“Twinkle ABC” “Beautiful Name”</p> <p>【Activity】自分の名前に使われているアルファベットを発音したり、好きなアルファベットを友達に伝えたりする。</p> <p>【Communication】自分の名刺を紹介したり、友達の名刺の紹介を聞いたりして、名刺交換をする。</p> <p>【Reflection】</p>	ア①

6 本時 (第4時 / 4時間)

本時の目標 相手に伝わるように工夫しながら自分の姓名や好きなものを紹介したり、友達が話すのを聞いたりする。

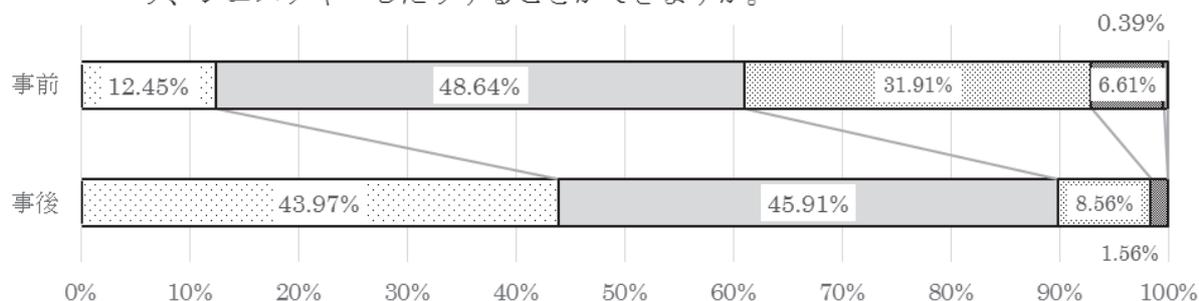
	活動内容	・指導上の留意点 ◎評価
導入 (8分)	<p>【Greeting】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●挨拶をする。</li> </ul> <p>“Hello Song” “Beautiful Name”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●Small Small Talk</li> </ul> <p>【Let's Sing】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●カードを並べたり、歌う箇所を分担したりしながら楽しく歌う。</li> </ul> <p>“Twinkle ABC”</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語のリーダーに前に出しALTや全体と挨拶をさせる。</li> <li>・これまでの既習表現を使って、友達と2～3往復の会話を行えるように助言する。</li> <li>・自分の名前のアルファベットのところで立たせたり手を挙げさせたりする。</li> </ul>
展開 (30分)	<p>【Activity】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●3人又は4人のグループで「アルファベットならべ」をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; text-align: center; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>英語を使って、友だちと名しこうかんをしよう！</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勝ち負けではなく、グループで協力して素早く正確にアルファベット順にカードを並べるように声掛けをする。</li> </ul>
	<p>【Communication】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●前時に作成した名刺を1人3枚か4枚持ち、友達と名刺を交換する。(クラス全体で)</li> </ul> <p>(1) HRTとALTで名刺交換のデモンストレーションを行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">I do</span></p> <p>(2) 児童全体と教師とのやり取り、代表児童のデモンストレーションを行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">We do</span></p> <p>(3) 児童同士の活動を行う。 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">You do</span></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●もらった名刺から、同じアルファベットを使っている友達や、好きなものが似ている(同じ)友達を探すなどして、全体で交流する。</li> </ul> <p>&lt;やりとり&gt;</p> <p>A&amp;B: Hello.</p> <p>A: My name is HANAKO. H-A-N-A-K-O.</p> <p>I like blue.</p> <p>B: My name is TARO. T-A-R-O.</p> <p>I like pizza.</p> <p>A: Here you are.</p> <p>B: Wow. Nice. Here you are.</p> <p>A: Good.</p> <p>A&amp;B: Thank you. Bye.</p>	
まとめ (7分)	<p>【Reflection】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●本時で感じたことを発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達とやり取りをして初めて知ったことや、実生活と英語をつなげて考えているような内容を取り上げ、全体で紹介する。</li> </ul>

## VII 成果検証

### 1 事前・事後アンケートの結果

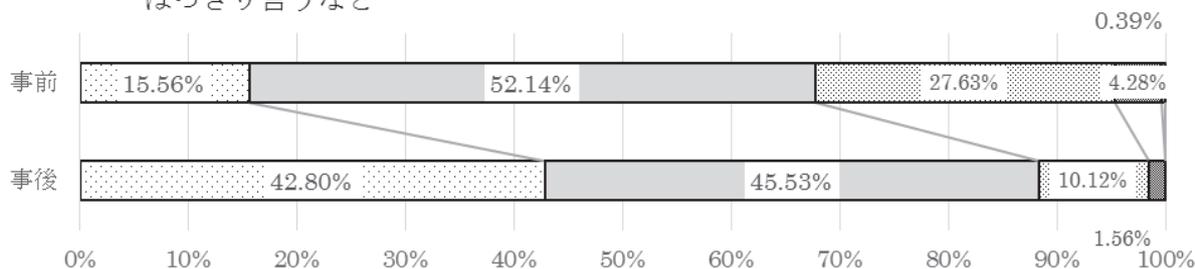
本部会教育研究員の所属校において、検証授業を受けた児童 257 名を対象とし、単元の指導前と指導後にアンケートを行った。結果は次のとおりである。

①外国語活動の時間、話したり聞いたりしている時にアイコンタクトしたり、ジェスチャーしたりすることができますか。



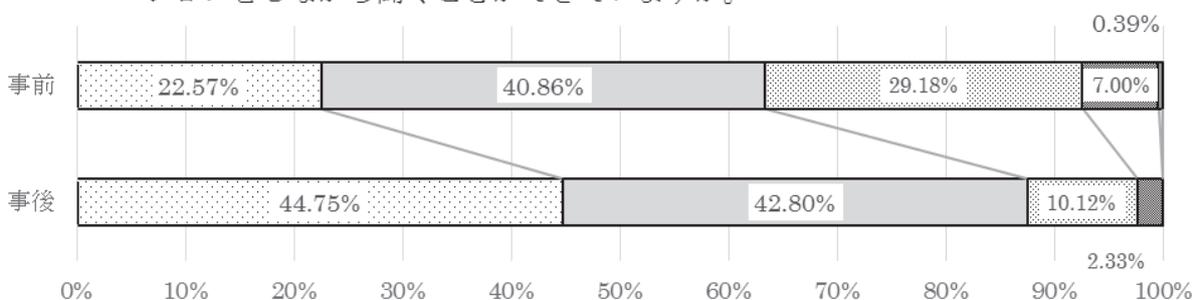
□ 1. いつもできている □ 2. 時々できている ■ 3. あまりできていない ■ 4. できていない ■ 5. 無回答  
 肯定的回答 (1・2番) 61.09%→89.88%                      否定的回答 (3・4番) 38.52%→10.12%

②外国語活動の時間、相手に伝える工夫をして話すことができますか。例) 何度も言う、ゆっくり言う、ジェスチャーをつけて言う、強くはっきり言うなど



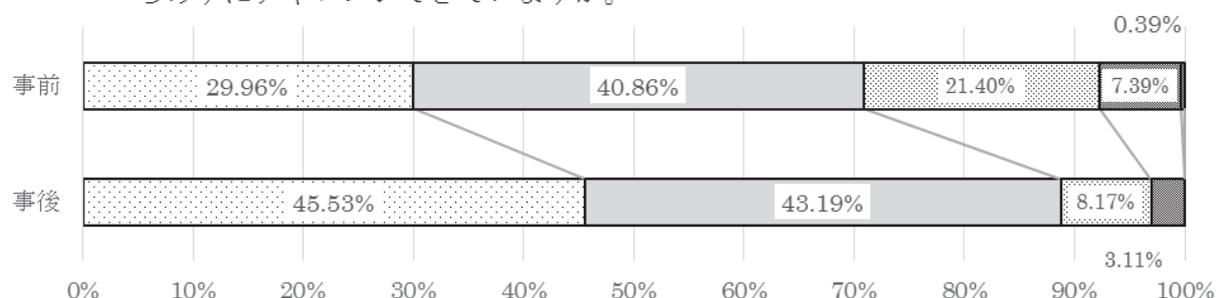
□ 1. いつもできている □ 2. 時々できている ■ 3. あまりできていない ■ 4. できていない ■ 5. 無回答  
 肯定的回答 (1・2番) 67.7%→88.33%                      否定的回答 (3・4番) 31.91%→11.68%

③外国語活動の時間、うなずく、あいづちをうつ、ほめるなどのリアクションをしながら聞くことができますか。



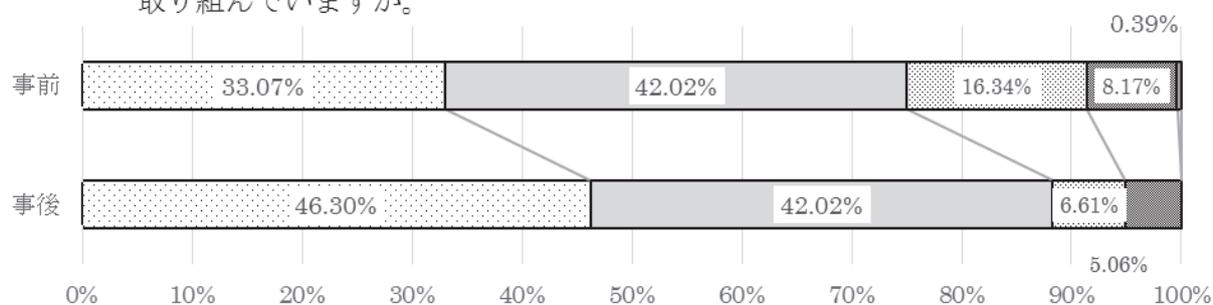
□ 1. いつもできている □ 2. 時々できている ■ 3. あまりできていない ■ 4. できていない ■ 5. 無回答  
 肯定的回答 (1・2番) 63.43%→87.55%                      否定的回答 (3・4番) 36.18%→12.45%

④外国語活動の時間、（はずかしいな）、（難しいな）と思っても、あきらめずにチャレンジできていますか。



□ 1. いつもできている □ 2. 時々できている ■ 3. あまりできていない ■ 4. できていない ■ 5. 無回答  
 肯定的回答（1・2番）70.82%→88.72%                      否定的回答（3・4番）28.79%→11.28%

⑤英語を使って話したり聞いたりする活動に（やってみたい!）と思って取り組んでいますか。



□ 1. いつもできている □ 2. 時々できている ■ 3. あまりできていない ■ 4. できていない ■ 5. 無回答  
 肯定的回答（1・2番）75.09%→88.32%                      否定的回答（3・4番）24.51%→11.67%

## 2 事前・事後アンケート結果の分析

(1) 質問2「外国語活動の時間、相手に伝える工夫をして話すことができますか。」

肯定的な回答（「いつもできている」「時々できている」）をした児童が約20%増え、88%となったことから、アイコンタクトやジェスチャーを意識しながらコミュニケーションを取ることができるようになり、相手に伝える工夫にはどのような方法があるのかを理解した児童が増えていると考えられる。

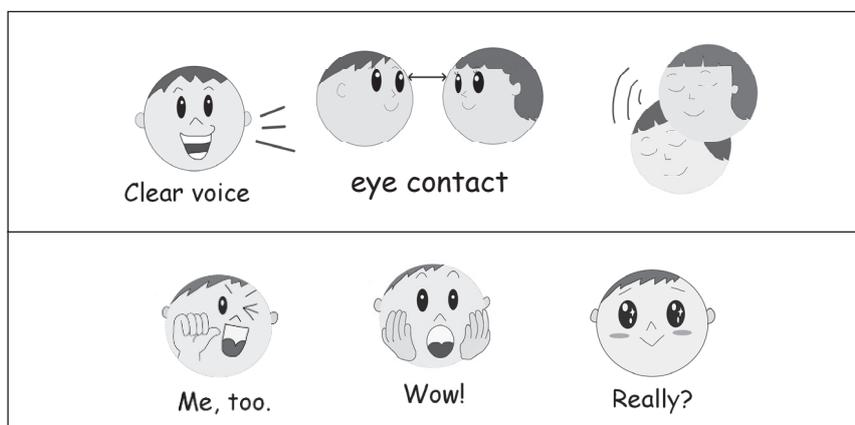
検証授業では、教師が示すモデルから、非言語表現の重要性を児童が感じられるように、非言語コミュニケーションについて指導した。指導者が、伝える工夫として“gesture” “eye contact” “clear voice” “reaction” “smile”を常時掲示し指導をしたところ、それらの非言語表現を意識してコミュニケーションを取ろうとしている児童が増えたと考えられる。

また、児童の振り返りに「反応があっっておもしろかった。」「たくさんの人と触れ合い、人はそれぞれだから言い方を変えた。」との記述が見られたことから、児童がやり取りの際に、伝える工夫をすることの良さを、体験を通して実感できていたことがうかがえる。このように、非言語表現を例示したことに一定の成果が見られた。さらに意識を高めさせるためには、伝える工夫の重要性についての意識付けを行うことが今後の課題である。

伝える工夫に対する児童の気付きを共有しながら、その大切さについて考えさせ、更なる意識付けや価値付けを行うことで実際の行動につなげられるようにすると、さらに児童のコミュニケーション力が向上すると思われる。もう一つの課題としては、目的意識のもたせ方である。検証授業では、自分の思いや考えを伝えることだけに集中してしまい、相手に伝える工夫にまでは至らない児童もいた。そのことから、「どのような目的があってこの活動を行っているのか」という目的意識をもたせることによって実践につなげたい。今後も児童が相手に伝える工夫を意識し、活用できるように継続した指導が必要である。

(2) 質問3「外国語活動の時間、うなずく、あいづちをうつ、ほめるなどのリアクションをしながら聞くことができますか。」

肯定的な回答（「いつもできている」「時々できている」）をした児童が24%増え、87%となったことから、相手の話に反応をしながら聞くことの重要性を児童が理解し、実践できるようになってきていると考えられる。また、表現選択の工夫として、反応する際に活用できる表現を指導したことで、どのような言葉がどのようなときに活用できるかを児童自身が考え、自ら選択し、やり取りを楽しむ様子が多々見られた。理解の補助につながる視覚的な掲示物【図1】を準備したことも、相手への反応を促す一つの手助けになっていたと考えられる。



【図1】理解の補助につながる視覚的な掲示物

ただし、これらの反応を行えるようになるには時間が必要であり、日々の積み重ねが重要になる。また、外国語の時間だけでなく、日常の肯定的な学級の雰囲気も、児童の聞く姿勢を育てるために大切である。相手の話に反応しながら聞くことの良さについての意識付けをしながら、適切にできていたことを褒めて伸ばすということを日常的に実践していきたい。

(3) 質問4「外国語活動の時間、(はずかしいな)、(難しいな) と思っても、あきらめずにチャレンジできていますか。」

肯定的な回答（「いつもできている」「時々できている」）をした児童が18%増え、88%となったことから、英語に前向きな気持ちをもって取り組もうとしている児童が多くなったと考えられる。また、否定的な回答が約30%から10%以下に減少したことから、①教師がモデルを児童に見せ理解させる段階「I do」②教師が児童と一緒に活動し、慣れ親しませる段階

“We do” ③児童同士で活動させる段階 “You do” という三つの段階で指導をして、児童が発話練習を何度も繰り返すことが、児童の前向きなチャレンジにつながり、自信をもって活動に臨むことにつながったと考えられる。また、コミュニケーションをすることが恥ずかしいという気持ちを児童がもっていても、「反応してもらえると嬉しい」という喜びの感情が意欲につながり、実践できるようになってきたのだと考える。段階的な指導で表現を定着させ、児童が相手の話に反応しながらやり取りする楽しさや嬉しさを味わわせることが、児童のコミュニケーションに対する主体的な態度を育成するのに有効であると言える。

(4) 質問5「英語を使って話したり聞いたりする活動に（やってみたい!）と思って取り組んでいますか。」

肯定的な回答（「いつもできている」「時々できている」）をした児童が13%増え、88%となったことから、英語への意欲が向上したと考えられる。この質問に関しては、事前の結果も肯定的な回答をした児童が75%であったことから、検証授業に関わらず、児童は外国語活動への関心・意欲を常にもっていると考えられる。しかし、段階的指導により更なる意欲の向上があったことから、児童が授業の中で自己の技術の高まりをリスニング活動等で自覚でき、そのことが「できる」という自信が高まり、意欲の高まりにつながっていると考える。一方で否定的な回答をした児童が24%から11%に減少したものの、いまだに意欲をもてない児童もいる。児童の意欲を現状より更に向上させるためには、活動内容や目的意識のもたせ方を工夫し「やってみたい」と感じさせる取り組みや指導の工夫をしながら、英語を使えるという自信と安心感をもたせることができるような段階的指導を積み重ねることが重要になる。

## Ⅷ 研究の成果と課題

### 1 成果

#### (1) より良いコミュニケーションの姿の価値付け

全ての検証授業において児童が自分の想いを伝えるだけでなく、相手や他者の発話に反応したり、相づちやほめ言葉で返したりするなど、相手意識を丁寧に指導した。教師がコミュニケーションの工夫を価値付けし、児童が体感し、気付きを振り返ることが、児童に相手意識をもたせることに有効であった。

このことは、事前・事後アンケートにおいて「外国語活動の時間、相手に伝える工夫をして話すことができていますか。」（質問2）に対して、肯定的な回答をする児童が、68%から88%になり約20%増えている結果にも表れている。

#### (2) 表現する内容の自己選択や表現方法の工夫

表現する内容の自己選択や表現方法を工夫することで、児童の友達に対する相手・他者意識が高まり、主体的に取り組む児童が増えた。検証授業1では、“Me too.” “Wow!” “Really?” の三つの反応にしぼり、相手の様子を見ながら自分で表現を選び伝える活動を行うことで、相手の思いを理解しながら友達とコミュニケーション活動に取り組む姿が見られた。検証授業2では、友達を褒める表現として“Good.” “Great.” “Wonderful.”などの表現を導入し選択させることで、児童が積極的に自分で表現しようとする態度を引き出すことができた。検証

授業3では、コミュニケーション活動に入る前に、“Me too.” “Wow!” “Really?” “Nice.”などの表現や「伝えたいキーワードをゆっくり話す」「伝えたいところを大きな声で話す」ことを確認した。このことで、「友達の意外な一面を知ることができてよかった」「友達のことがもっと知りたい」と振り返りカードに記す児童が多く見られた。児童は自分のことを表現したり、友達の新たな一面を知ったりすることで、人と関わる楽しさを実感し、主体的にコミュニケーションを図ろうとしていた。

このように、表現する内容の自己選択や表現方法を工夫し、相手や他者を意識させる活動を設定したことで、どのような言葉がどのような場面に活用できるかを児童自身が考え、自ら選択し、やり取りを楽しむ姿が多く見られた。そして、最後まで聞いてもらえた満足感、分かってもらえたという達成感を得ることができた。さらに相手や他者に合わせて自己選択する活動を積み重ねることで、目の前の相手や他者のことを考えながらコミュニケーションを図ることができるようになって考えられる。

### (3) 目的意識をもたせるゴールの明確化

検証授業1では、先生や友達が元気になるサラダを作る活動、検証授業2では、理想の時間割を考える活動、検証授業3では、友達と名刺を交換する活動を行った。

検証授業1では、先生や友達に元気になってもらうサラダを作るという単元のゴールを設定した。そのことにより、友達に伝えたいという意欲をもたせることができた。さらにやり取りに必要な語句や表現を練習する必然性が生じ、目的意識をもって主体的に活動に取り組むことができた。

これらのことは、事前・事後アンケートにおいて「英語を使って話したり聞いたりする活動に（やってみたい！）と思って取り組んでいますか。」（質問5）に対し、肯定的な回答をした児童が75%から88%へと13%増えている結果にも表れている。

このように児童に目的意識をもたせるゴールを明確化することが、「自分の思いが伝わった」「友達の言いたいことが分かった」という経験を積み重ね、児童の主体的なコミュニケーション活動につながると言える。そして人と関わることへの自信を深めている。

## 2 課題

### (1) 児童との伝え合う目的の共有

英語で伝え合う目的のある場面や状況の設定を行ったとしても、その活動の意図が児童に十分に伝わっていなければ効果的な設定にはならない。例えば、検証授業においてインフォメーション・ギャップを利用したゲームを行った際に、児童がゲームの勝敗や正答することにこだわってしまう場面が見受けられた。ゲームを行う本来の目的は、英語でのゲームを通して自己や他者に対する理解を深めたり、「自分の言いたいことが伝わった」「相手の言っていることが分かった」というコミュニケーションにおける達成感、成就感や満足感を味わったりすることである。伝え合う目的や意図を児童に理解させた上で活動に取り組ませる必要がある。

## (2) 場面設定や状況設定のより一層の工夫

普段の学校生活を共に送っている仲間との活動だからこそ、英語で伝え合う必然性のある場面や状況の設定については、より一層の工夫が必要である。「将来の夢」や「好き嫌い」など、個人的な内容を扱う場面では、事実をやり取りすることに意味があり、よく知っている仲間とだからこそ安心して活動することができる。

しかし、場合によっては「お店や海外などでのやり取り」、「初対面の相手とのやり取り」などといった、普段の学校生活や本当の自分とは違う、架空の場面や内容を扱うような状況設定を行うことも、児童の相手意識をより高めたり、主体性を引き出ししたりするための工夫として有効である。

児童が、実際のコミュニケーションにおいて英語の知識・技能を活用することが重要であり、生活の中での場面や状況を設定することが必要である。実際のコミュニケーションでは、話し手が目的をもち、会話をする場面や状況がある。教室では、写真やイラストなど視覚教材を活用するなどして場面や状況の設定を明確にし、どのような目的での会話なのかを児童に理解させることが大切である。

## (3) 児童により良いコミュニケーションの工夫を考えさせる機会の設定

コミュニケーションにおける工夫の例を掲示して日常的に意識できるようにしたり、授業で児童が自ら選択して表現できるように、指導の工夫を行ったりしてきた。その結果、児童は相手意識をもって話したり聞いたりすることができるようになった。しかし、コミュニケーションにおける工夫を、児童自身に考えさせる機会を十分に設けなかった。

今後は、「より良いコミュニケーションのために大切なことは何か」ということを、児童に考えさせたり、児童同士で考えを共有させたりすることが重要である。児童のつぶやきや気付きなどからコミュニケーションの工夫を取り上げ、全体で共有することなどにより、さらに児童の主体的な学びを促していく必要がある。

## 平成 30 年度 教育研究員名簿

### 小学校・外国語活動・外国語

学 校 名	職 名	氏 名
千代田区立和泉小学校	主任教諭	中川 智栄子
江戸川区立篠崎第二小学校	主任教諭	○ 関野 優
江戸川区立清新第一小学校	主任教諭	◎ 三神 礼雄
三鷹市立大沢台小学校	主任教諭	植村 友博
調布市立深大寺小学校	主任教諭	海野 侑香
小平市立小平第十一小学校	主任教諭	香西 進次郎
東久留米市立第二小学校	主任教諭	藤沼 明子
多摩市立大松台小学校	主任教諭	濱田 会美
西東京市立保谷第一小学校	教 諭	岡本 あさか
東京都立清瀬特別支援学校	教 諭	平野 嗣佳

◎ 世話人      ○ 副世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部指導企画課  
指導主事 佐々木 真吾

平成 30 年度

教育研究員研究報告書  
小学校・外国語活動・外国語

東京都教育委員会印刷物登録  
平成 30 年度 第 135 号

平成 31 年 3 月発行

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課  
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号  
電話番号 (03) 5320-6849  
印刷会社 康印刷株式会社